

文化・芸術

「おじいちゃん」

1952年、油彩、カンバス
90・9センチ×72・7センチ
(広島市現代美術館蔵)

鶴岡政男 (1907～79年)

鶴岡政男は高崎市に生まれ、上京。1922年には太平洋画科会研究所で鬚光らと交友を結び、NOVA美術協会を結成し、松本竣介らと展覧会を開催しました。戦中は病氣のため兵役を解除されて帰国、45年には東京大空襲により戦前の作品のほとんどを焼失しました。画風をめぐりながら鋭いまなざしで時代の空気をとらえ、閉塞(へいそく)感や虚無感を描き出しました。

本作は幾何学的な形態でとらえられた人の顔、腕、脚が認められます。片足の靴は脱げ、両手は一つにまとめられ、その手首には痛々しく食い込んだ跡が刻まれています。ここは監獄か、画面下に人物の足元に置かれた白い半月形のは食事の器でしょうか。首元には右から一筋の鋭い直線が走ります。

大川美術館「松本竣介と鬚光、そして同時代の画家たち」から

展示室2では広島市現代美術館から寄託いただいた鬚光の作品を中心とした昭和期の戦前・戦後の美術をご紹介します。当館での展示は本展会期の6月11日まで。松本竣介の「アトリエ再見」の展示とともにご覧下さい。

(大倉)

名画の扉

